

【削減目標】1990年比	
【2030年】 166万トン/ 30%	【2050年】 277万トン 50%

都市構造の変革

複数の核（都心、産業技術核、拠点地域核、地域核など）への機能集約とネットワーク整備による多核ネットワーク型都市構造の確立
水と緑と産業の調和を図る土地利用の誘導

<「活発な市民活動・強い経済活動」と「水と緑の低炭素社会」が両立>

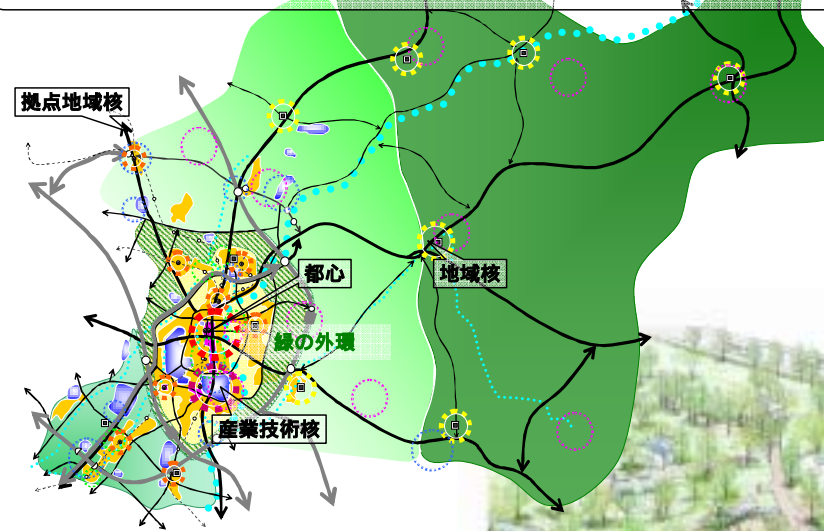
ハイブリッド・シティ とよた

- 人と環境と技術が融合する環境先進都市 -

ライフスタイル・ビジネススタイルの変革

環境技術(省エネ、低環境負荷)の高度化と普及
自然・再生可能エネルギーの活用(太陽光・風力・バイオなど)
環境配慮行動の一般化

3つの領域(「交通」・「産業」・「森林」)において、「人と環境と技術を融合(ハイブリッド)」した低炭素社会への取組。
「都心」に先端の環境技術を先駆的に投入し、各領域の取組のモデル地区として見える化を図り、市内外に訴求し、実際のまちづくり・市街地整備に波及。
併せて、環境と暮らしの技術を融合する「民生」における取組が各領域の取組を支える。



環境技術による明日の快適な低炭素社会を提案するシンボリックな都心の形成

都心

「環境と交通技術のハイブリッド」による魅力あふれる環境交通モデルの構築

交通

【2030年】
426千トン/ 40%

かしこクルマと道路を使う
エコカーライフの実現

- エコカーの普及
- エコドライブの実践
- ITS活用による交通秩序と安全性向上
- 幹線道路ネットワークの整備

人と環境にやさしい
公共交通の整備

- 鉄道が使いやすいまちの実現
- バスが使いやすいまちの実現
- 公共交通への転換促進策



低炭素社会モデル地区
の整備

- 低炭素社会モデル地区の整備
- 各分野の先進技術を駆使し、低炭素社会の新たな「まち」を実験的に整備
- 市内での市街地整備や様々な事業展開のためのパイロット事業とする

「人」と「緑」の
都心づくり

- ゾーン規制の導入
- 人々の回遊を生み出す交通システムの導入
- 環境技術を率先導入した低短損な都心づくり
- 環境に配慮した公園整備



「環境と産業技術のハイブリッド」による持続可能な産業都市の実現

産業

【2030年】
1,012千トン/ 27%

「都市と森林のハイブリッド」による森林のCO₂吸収量最大化

森林

【2030年】
165千トン吸収

「環境と暮らしの技術のハイブリッド」による環境に配慮した暮らしの実現

民生

【2030年】
156千トン/ 17.6%

体制・仕組み

豊田市環境経営ネットワーク
の構築による
環境経営の普及

- 豊田市環境経営ネットワークによる環境経営の普及
- 包括的支援の推進
- 中小企業が一体となったCO₂削減活動の推進

サステナブル
プラントへの移行推進

間伐の強力実施による
CO₂吸収量最大化

- 間伐の強力実施
- 地域の合意形成組織の展開

地域材の利用推進

- 林道整備、高性能林業機械導入による低コスト化の取組
- 地域材の加工プラントの整備及び有効利用の取組

市民啓発活動及び
森林環境教育の実施

- 「とよた森林学校」「とよた森林学校出前講座」の継続的実施

太陽光発電システムの普及促進

- 太陽光発電システムの導入支援拡大

照明・家電製品・建築物
の省エネ化

- 省エネ家電買換え運動の展開
- 家庭用燃料電池システムの普及促進
- 公共施設の環境配慮型施設への転換及び延命化

見える化による環境知識
や関心の向上

- 豊田市版エコポイントを活用した行動転換の促進
- 環境配慮行動の見える化促進
- カーボン・オフセットの推進
- 市民への普及啓発

環境先進都市を実現するとよた市民の会
による環境配慮行動の実践

環境教育推進

- 環境学習ネットワーク(eco-NET)設立、環境学習推進

環境先進都市とよた推進機構
による環境配慮行動の支援

CO₂削減基金
による行動財源の確保

様々な分野における市民、事業者の環境配慮行動を相互に連携、協働